



共催

理学研究科生物科学専攻

生物多様性コロキウム

トランスクリプトミクスで迫る細胞分化能

他専攻からも来聴歓迎！



大川恭行 教授

Prof. Yasuyuki Ohkawa

九州大学 生体医学防御研究所
トランスクリプトミクス分野

日時：2020年2月4日（火）16:00～

場所：理学 1号館106号室 (BP1)

幹細胞が分化し特定の組織を形成する際には、ゲノム上に存在する数万の遺伝子から分化に必要な遺伝子が選択的に転写されます。つまり、幹細胞には、最終分化に必要な遺伝子をONにし、不要な遺伝子をオフとする能力が備わっています。この能力は、遺伝子発現制御が行われる足場であるクロマチン構造により規定されていると考えられています。私たちは、組織に極少数含まれる骨格筋幹細胞のクロマチン構造を解析する技術を開発し、クロマチン構造が規定する遺伝子の発現されやすさを理解することで、細胞のもつ分化能の解明を目指しています。現在までの取り組みを紹介します。

世話人：

生物科学専攻 動物学教室
高橋淑子 内線 4102

Biodiversity
Colloquium